



## いのちに寄り添う

一日ごとに秋の色が濃くなって  
きましたが、皆様にはいかがお過  
しでしょうか？

暑い日が続いていましたので、よ  
うやく涼しくなってきたとホッと  
する半面、思った以上に寒くなり、  
体調を崩されている方もいらっ  
しやると思います。

シャローム横浜でも8月の終わ  
りから風邪をひいたご利用者が多  
くなり、入院者も増えていきます。季  
節の変わり目はご利用者にとって  
非常に厳しい時期ですが、体調が落  
ち着き、入院された方もお元気な姿  
でお戻りになられることを切に  
願っております。

現在は新型コロナウイルスだけ  
ではなく、インフルエンザや咽頭結  
膜熱、溶連菌感染症、疥癬など、様々  
な感染症が流行っています。10月  
6日時点でインフルエンザの感染  
者数は新型コロナウイルスよりも  
多くなっており、今までにはないペー  
スで増え続けています。これは3年  
半前に出現した新型コロナウイルス  
スという新たな脅威により、皆が手  
を洗い、アルコール消毒・マスク着  
用と徹底した感染対策を実施しま  
した。その結果、生活の中でウイル  
スや細菌が身体に入る機会が減少  
して、自然に獲得してきた免疫の力

が低下。それにより様々な感染症  
に罹患しやすくなっていると感じ  
ています。

この感染症との関りは、いつ落  
ち着くかが見えてきませんので、  
面会方法なども新たな方法を模索  
する必要がありますと感じています。  
ご利用者は高齢であり、体調を崩  
しやすく、ご家族もコロナ前は自  
由に面会でできていたことが、予約  
制でしか出来ない状況が続いてい  
ます。そのため、当施設では看取り  
状態にある方や、体調が安定しな  
い方のご家族に対して、個別に  
会っていただく機会を設けていま  
す。これは、日頃からご家族と接し  
ている相談員からの申し出により  
実現しました。ご利用者やご家族  
に寄り添うことのできる職員がい  
ることは、シャローム横浜の大切  
な財産になっていきます。

「いのちを敬い、いのちを愛し、  
いのちに仕える」。この理念は、「い  
のち」であるご利用者やそのご家  
族のことを考え、悩み、そして寄り  
添うことです。理念の実現を目指  
し、今後も努力を続けてまいりま  
すので、今後も皆様の「ご意見・ご要  
望を心よりお待ちしております。」

施設長 高原 信夫

## ひまわりが新体制になりました

9月1日付けにて認知症デイ  
サービスひまわりの管理者になり  
ました池原と申します。

4年前にこの「ひまわり」で介護  
職員として働いていましたが、再び  
「ひまわり」へ戻ることができ、嬉  
しく思います。皆様と力を合わせて  
頑張っております。

池原 雅彦



9月1日付けにて入職しました  
木下です。

1か月くらい経ちましたが、ご利  
用者と楽しい時間を過ごしてい  
ます。もっともっと皆様に楽しい時間  
を過ごしていただけるよう日々精  
進してまいります。

木下 順子

第 279 号  
令和 5 年 10 月 15 日発行  
(毎月 1 回 15 日発行)

責任者:施設長 高原信夫  
〒241-0802  
横浜市旭区上川井町 1988  
社会福祉法人アドベンチスト福祉会  
シャローム横浜

編集委員  
小林・荒金・石橋  
☎045-922-7333

<https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/>



## ご家族といつでも外出・外泊・面会できる日を待ち望んでおります

江戸時代、疫病は地震や火事とともに恐れられていました。2019年(令和元年)12月、新型コロナウイルス感染症は中国で報告され、2020年(令和2年)2月、日本で横浜港のクルーズ船での集団感染など、医療機関もひっ迫する事態となりました。電車の中で咳すらしづらいことになりました。

施設でもご家族の面会も難しい状況になり、現在も面会の際、マスクをつけるなどご利用者はどなたと会っているのかわかりにくく、大変申し訳なく感じております。

施設内ではイベントが減ってしまいましたが、食べ物のレクリエーションや季節に合わせた工作などを行っております。ご家族の面会はやはりうれしいものです。あたたかい声かけや触れ合いは、私達も安心した気持ちにさせていただきます。

ケアマネージャー 富樹 建美



## ラーメン屋台を開きました

10月1日は栄養課主催の行事で、ラーメン屋台を開きました。アオサ海苔入り醤油ラーメン、ニラ饅頭、そしてデザートに豆花(トウファ:中国発祥の豆乳から作られたデザート)を昼食時にご提供させていただきました。



レストランフロアにはラーメンのスープの香りが漂っており、ご利用者の皆様も喜んで美味しく召し上がっておいりました。

11月の行事では、種子島直送、安納芋の焼き芋をご提供させていただきます予定です。

栄養課課長 小寺 秀偉



## もし二人が心を合わせるならば

第187回 チャプレン 上前 至

16世紀に活躍したドイツ生まれのアルブレヒト・デューラーという画家には有名な絵が二つある。一つは「自画像」であり、一つは「祈る手」といわれる絵である。その「祈りの手」といわれる絵は今日、多くのキリスト信徒の家庭ではよく目にする絵である。その絵にまつわる逸話がまた、その絵を有名なものになっているといってもいいだろう。但し、その逸話が本当であったかどうかは定かではないが、そうであっても、デューラーが描いた「祈る手」そのものの価値はひとつも下がるものではない。私はその絵から祈りの大切さを教えられるからである。その逸話は、デューラーが画家として大成するまで経済的に彼を支え、そのためにその友人自身は画家としての道を断念したということである。デューラーを支えるために友人は重労働に徹し、そのために彼の手は絵筆を再び握れることが難しくなったという事である。デューラーはその友人の手に感謝

しつつ、その手を「祈る手」として後世に残したという事である。この記事の右下にある絵がそうであり、よく見るとその絵の中にある両手の小指は曲がっているのに気づく。それは重労働の故であったという。いずれにしても、私はその絵から「祈り」の大切さを教えられる。その逸話が本当であればなおさら、祈りの大切さが身に迫る想いでもある。私共の福祉会はその祈りの大切さを忘れずに、まず利用者の幸せを祈りつつ福祉の働きに携わっていく者でありたいと願う。「もしあなた方の二人がどんな願い事についても地上で心を合わせるならば、天にいます私の父はそれをかなえて下さるであろう。」マタイによる福音書18章19節

